

令和4年度（2022年度）北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会
アレルギー疾患対策小委員会（第2回北海道アレルギー疾患医療連絡協議会）
における意見等への対応について

協議事項1 アレルギー疾患対策小委員会委員長及び副委員長の選定について

当委員会における委員長・副委員長については、全委員より承認いただき決定しましたので報告します。

区分	所属	職	氏名	任期
委員長	北海道医師会	常任理事	三戸 和昭	令和5年 6月30日 まで
副委員長	北海道大学大学院医学研究院 呼吸器内科学教室	教授	今野 哲	

協議事項2 北海道アレルギー疾患医療拠点病院等における令和4年度の実施について

御意見等については、下記のとおり対応する考えです。

委員名・意見等	対応（拠点病院）
<p>【宇野委員】 北海道アレルギー疾患医療拠点病院のサイトを構築し、北海道大学病院アレルギーセンターのホームページに掲載した。とのことですが、アクセス数等の解析があれば、教えて欲しいです。</p>	北海道アレルギー疾患医療拠点病院の閲覧数は1年で約5千件でした。
<p>【水谷委員】 HPによる患者や医療従事者への情報提供がなされたことは、大変良かったと思います。また、公開講座や講演会の開催は、知識の向上や情報の共有などに役立ち有効だったと思います。</p>	引き続き、正しい知識の情報提供に取り組んでいきます。
<p>【木村委員】 市民向け公開講座の参加者が少なくてもったいないです。もう少し宣伝したり、講演をDVD化して、道内色々な施設で見れるようにしたらどうかと思います。</p>	市民公開講座のアーカイブ化について、非常に有用なご意見ありがとうございます。アーカイブ化が可能かどうか検討していきます。
<p>【松浦委員】 治療に関する患者や医療従事者等に対する情報提供は必要不可欠であり、大切な取組だと思えます。 アレルギーに関する最新情報は患者にとって生死にかかわる情報であり、公開講座は重要な取組だと思えます。</p>	公開講座や講演会などの開催により、患者や医療従事者等への情報提供に引き続き取り組みます。
<p>【児嶋委員】 公開講座や講演会などを開催し、適切に取り組んでいたと思います。</p>	公開講座や講演会などの開催により、患者や医療従事者等への情報提供に引き続き取り組みます。

<p>【浦崎委員】 ホームページについてですが、地域協力病院に掲載されている病院が少ない。閲覧する人は、特に乳幼児に多い食物アレルギーを診察する病院の情報を得たくて困っていると思うので、もっと地域協力病院の情報を充実させて欲しいです。ポータルサイトについては、内容が充実していて良いと思います。</p> <p>また、市民向け公開講座、医師対象の学術講演会、専門医の育成、拠点病院・地域協力病院による会議の開催についてですが、集合開催とWEB開催のハイブリット形式は良いと思います。加えて、地方勤務で都市部での研修へ参加しにくい環境にいる医師や医療スタッフのため、後日も視聴可能なアーカイブがあると良いと考えます。</p>	<p>ホームページに記載しました地域協力病院の表は協力病院にお願いして関連の施設へ情報提供を呼びかけて作成いたしました。そのため、お答えいただけなかった病院あるいは情報掲載許可をいただけない病院は掲載しておりません。</p> <p>全道の医師へのアレルギー拠点病院、協力病院の役割の周知により掲載病院を増やしていきます。</p> <p>市民公開講座等のアーカイブ化についても、検討していきます。</p>
--	---

協議事項3 北海道アレルギー疾患医療拠点病院等における令和5年度の実行案について

御意見等については、下記のとおり対応する考えです。

意見	対応等（拠点病院）
<p>【宇野委員】 急性のアレルギーでは緊急の対応を要する事もありますので、一般市民向け・コメディカル向けの公開講座を増やしたり、場合によってはYouTubeなどで教育動画を配信しても良いかもしれません。</p>	<p>一般市民向け・コメディカル向けの公開講座の開催や、アーカイブ化なども検討していきます。</p>
<p>【水谷委員】 講演会の開催や情報交流は有効だと思います。札幌以外でも、アレルギー疾患を専門に見てくださる医師が増えると安心だと思います。</p>	<p>専門医を育成するため、中心拠点病院あるいはアレルギー研修会への派遣を検討していきます。</p>
<p>【木村委員】 やはり北海道は広すぎて、他の都府県に比べて大変と思いました。</p>	<p>道内どの地域にいても情報を得ることができるよう、発信方法を工夫していきます。</p>
<p>【田澤委員】 アレルギー疾患の市民公開講座の開催 各地域の保護者なども参加できるようにオンラインでも開催して頂きたいです。よろしくお願い致します。</p>	<p>ハイブリット開催の継続及びアーカイブ化が可能かを検討していきます。</p>
<p>【児嶋委員】 次年度の実行の計画に承認します。アレルギー疾患について、市民からの疑問や質問に答えるなど、この病気の正しい理解と啓発に努めていってほしいです。</p>	<p>講演会の開催や、市民からの相談、質問へ対応することで、より多くの方々に正しい知識をご理解いただくことができるよう普及啓発を継続していきます。</p>

意 見	対応等（拠点病院）
<p>【浦崎委員】</p> <p>市民公開講座、学術講演会、拠点病院・地域協力病院連携会議についてですが、集合開催とWEB開催のハイブリット形式の継続、アーカイブ導入を検討してほしいです。また、専門医の育成についてですが、道外開催の研修会に積極的に参加することや国の拠点病院【成育医療センターや相模原病院等】へ医師を研修に出すことも検討してほしいです。</p>	<p>ハイブリット開催の継続及びアーカイブ化が可能かを検討していきます。</p> <p>また、中心拠点病院あるいはアレルギー研修会への派遣を検討していきます。</p>

照会事項1 北海道アレルギー疾患医療に関する目標の実現について

御意見等については、下記のとおり対応する考えです。

委員名・意見等	対 応（道）
<p>【千葉委員】 将来イメージに賛同致します。追加等ありません。</p>	<p>道民の皆さまが、より身近な地域で医療を受けることができるよう、拠点病院を中心とした診療連携体制の構築を進めます。</p>
<p>【宇野委員】 医療圏の設定自体も議論されている事と思いますが、必ずしも医療圏に縛られることなく、誰もが通院可能な範囲で医療が受けられる設定を望みます。</p>	
<p>【水谷委員】 札幌以外の地域の一般病院や診療所で診療を受けられるようになれば、本当によいと思います。たくさん医療機関に参画していただきたいです。</p>	
<p>【木村委員】 耳鼻咽喉科のアレルギー疾患についてですが、道の面積は国土の22%と広く、人口密度は居住地域によって極端に異なります。 A) 都市部では生活圏に耳鼻咽喉科がいくつもある B) 居住の町村あるいは近隣では耳鼻科医が不在 「居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギーの状態に応じて適切な医療を受けることができるようにする」様にするには、A)とB)に対して、同じ対応では無理ではないでしょうか？ 例えば、B)に対しては、公的なタウン誌やホームページ、学校の保健便りなどを通じて、「アレルギーの様な症状とはどんなものか？症状が出たら、拠点病院のホームページを見てみよう」ということを促すことや、耳鼻科医不在地域で医療に携わっている医師に、耳鼻科医の治療法や診療に役立つ知識の情報提供を行うなど、最終的に受付治療にA)とB)で差がなくなることが「居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギーの状態に応じて適切な医療を受けることができるようにする」につながるのではないのでしょうか？</p>	<p>「居住する地域に関わらず、等しく適切な医療を受けることができるようにする」ためには、ご意見のありました通り、ホームページへの掲載のほか、公開講座や講演会等による情報発信も重要であると考えます。 今後もこうしたご意見を踏まえ、目標の実現に向けて取り組んでいきます。</p>
<p>【松浦委員】 道内どこの地域においても適切な医療を受けられるようにするためには、診療連携の輪を全道的に拡充させることは大切だと思います。</p>	<p>道民の皆さまが、より身近な地域で医療を受けることができるよう、拠点病院を中心とした診療連携体制の構築を進めます。</p>
<p>【浦崎委員】 現行の目標の拡充を図ってください。</p>	

照会事項2 学校現場におけるアレルギー知識の拡充について

御意見等については、下記のとおり対応する考えです。

委員名・意見等	対応（拠点病院）
<p>【宇野委員】</p> <p>年々エピペンを持参する子供が多くなっているように思えます。学校においてエピペンに関する研修を行う事もありますが、教員は毎年入れ替わっていくので、継続的な研修が必要です。現状においては学校長の判断等で研修が行われていますが、少なくとも2年1回程度の研修が実施される体制が望まれます。またエピペンを使用するケースではその後直ちに医療機関への受診が必要ですが、そこがうまくリンクできるかは疑問です。AEDの使用法、救急隊・医療機関に的確に情報を伝えるために等をアレルギーの知識を得るものと一体で行えると良いと思います。</p> <p>実際に地元の小学校で消防の方と協力して、エピペン講習から引き続き、AEDの使い方、救命措置、救急車を呼ぶときに必要な事を教職員向けに行った事がありますが、非常に良かったとの感想を頂いた事があります。</p>	<p>エピペンの使用法、その後の対応は重要な研修と考えます。しかし、それぞれの学校へ研修を行うのは、マンパワーを要する事業ですので、拠点病院だけでは難しいと思います。消防の方から講習いただけると助かります。</p>
<p>【水谷委員】</p> <p>食物アレルギーに関しては、管理指導表や申請書をもとに適切な給食対応ができるよう配慮されている。個別対応は、栄養士にかかる比重が大きく、学校全体で取り組むものにはなっていない場合も多いのではないかと感じます。</p> <p>管理職をはじめ、教職員に対して食物アレルギーについての一般的な知識やショック時の対応などの知識を得る機会が定期的にあるといいのではないかと思います。（現場では対象児童生徒がいる場合、緊急時に備えてエピペンの使用についての講習会を開催するので、重い症状の児童生徒がいる場合などは、医師にお話ししていただける機会があると有効かと感じます。）</p> <p>また、食物アレルギー以外のアレルギー疾患（喘息や鼻炎、アトピーなど）で学校生活管理指導表が活用されている場合は少ないように思います。</p> <p>郊外学習や宿泊を伴う旅行的行事もあるので、食物以外のアレルギー疾患に関しての知識も必要ではないかと思います。</p>	<p>食物アレルギーをはじめとして、各種アレルギー疾患の市民向けの動画が本年3月27日に公開されました。北海道アレルギー拠点病院ホームページからリンクがある「アレルギーポータルサイト」→「アレルギーについて」→「アレルギー動画集」をご覧ください。参考になりますので、ご周知いただくと幸いです。</p>

<p>【木村委員】</p> <p>耳鼻咽喉科分野であるアレルギー性鼻炎について、お知らせします。1)～5) などである程度の診断がつきます。</p> <p>1) 症状：くしゃみ、鼻水（水溶性鼻汁）、鼻づまり、かゆみ（鼻、のど、耳）</p> <p>2) 症状発見時期：通年性（場所や季節で変化）、季節性（発見する季節）</p> <p>3) 症状発見場所：屋外、屋内など</p> <p>4) 気管支喘息の有無</p> <p>5) 果物摂取時のかゆみ（口腔アレルギー）の有無</p> <p>最近、シラカバなどの花粉症の発症低年齢化があり、花粉飛散時期の外での授業、窓を開けての授業には気をつけてください。</p>	<p>アレルギー性鼻炎の診断や注意点は、とても参考になると思います。</p>
<p>【浦崎委員】</p> <p>①札幌市教育委員会は、平成20年度に「学校給食における食物アレルギー対応の手引き」を、平成22年度に「札幌市幼稚園・学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル」を作成し、北海道教育委員会は平成26年度に「学校における食物アレルギー対応の進め方」を作成しました。知識の拡充は、まずはこれらの対応マニュアルを熟読し、それが小・中・高等学校（もしくは園）の全てで適切に運用されるよう努めることだと思います。また高校では給食はなくなりますが、調理実習や宿泊行事があるので同様の姿勢が求められると考えます。</p> <p>②北海道教育委員会は、上述の「学校における食物アレルギー対応の進め方」をHPで一般公開（https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/96220.html）していますが、P1に「ガイドラインの徹底」、「研修の充実」と述べています。そして、P7に体制作りの例として「校内アレルギー対応委員会」の提案があり、P11には「校内研修講師を集めての研修会の開催」や「全道規模、管内規模の研修会への参加促進」といった提案があります。またP25には研修時期について、「年度始め」や「校外行事や宿泊を伴う行事の前など必要に応じて」と書かれています。</p> <p>上記にある「校内研修講師」を誰が担うかについては、P7の図にあるように「校内アレルギー対応委員会」のメンバーである「学年主任、保健主事、学級担任、給食・食育担当者、養護教諭、栄養教諭等」が、各々自分の職域に関する内容を分担して研修会を開催すると知識の拡充に繋がるのではないかと考えます。そして、P11の「全道規模、管内規模の研修会」が、教員・養護教諭・栄養教諭等の各組織（※）で定期的に行われ、それを各勤務先に持ち帰り、校内（園内）研修を開催することで更なる知識の拡充に繋がると期待します。（※各組織とは、北海道校長会、北海道栄養士会、北海道学校保健会、北海道保育協議会等）</p>	<p>学校におけるアレルギーの対応がよくわかりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>

③教育現場にとって、特に緊急時のエピペン使用への不安感・負担感が大きいと思います。「エピペン講習会」を各学校で開催できれば良いと思いますが、例えばその講師役を札幌市が行っている市民向けの「出前講座」形式で実施するのはどうでしょうか。

④先生が相談できる窓口を保健所等に設けることも必要と思います。